

東照宮御代

久世

高三百俵

源姓

家紋

丸内豎二枚鷹羽
丸内橋

中務卿具平親王後胤東久世

右大臣豊道之孫三州久世平太夫

廣長男

長宣

平四郎

初政忠

弘治二年二月

東照宮三州海野平御巡見之時召

出され奉仕○永禄六年一向衆一揆

之時同國針崎正満寺の宗徒に与力

同年十一月廿一日同国上和田にて戦

死二十四歳

忠定

平四郎

藤三郎

父長宣戦死の後幼年故成長之後

三州小島に於て被召出

東照宮^江拜謁其後所々御陣供奉

○永禄十一年遠州遠見山天王山

御陣之時一番鎧其時御陣屋にて

鳥居彦右衛門披露を以蒙命黄金

を給ふ○御弓奉行○御軍法を背

き酒井左衛門尉に預らる○慶長

十一年八月二日死す

定房

藤十郎

平之丞

父と共に所々御陣供奉○天正十二

年長久手御陣の節首二級を得て

御褒詞を蒙る○現米五十石を賜い

相州箱根御関所女手形改役其後

久野周五十六人預られ其後江州

御代官○父の咎によりて御役御免

差扣○慶長十八年八月廿一日死五十

三歳本郷丸山本妙寺葬る

定勝

平四郎

平之丞

才兵衛

致仕浄治

父御咎の内病死に付跡式命せられ

す幼少にて内藤修理久世三四郎

の世話にて成長の後寛永十二年

十月十日久世三四郎廣當百人組頭

仰付られし時三四郎了簡を以当分

勤仕すへき旨にて百人組与力となり

其後召出され二百俵賜はる大御番

○寛文三年三月致仕○同十二年

六月廿七日死七十八歳同寺

定明

惣左衛門

大猷院殿御代新に召出され百人

組与力○万治二年八月三日死六十

二歳丸山本妙寺に葬る

定之

惣左衛門

次郎八

病身により生涯定該の厄介にて

享保五年十一月三日死六十七歳同寺

定春

平四郎

伊兵衛

平之丞

致仕柳山

寛文三年三月家督○神田御殿

御小姓組○御目付○御作事奉行加

秩百俵○浄徳院殿西丸 被遊御座

候時御勘定頭○天和三年七月小石

川御殿支配○同年十一月桐之間御番

○貞享元年七月病免○元禄十六年

七月致仕○正徳三年十二月廿五日死

七十八歳本所小梅村常泉寺に葬る

常憲院殿御筆竹 雀御繪拝領

某

才兵衛

火消組与力へ相勤○元禄六年九月廿五日死本郷本妙寺へ葬

以下略